
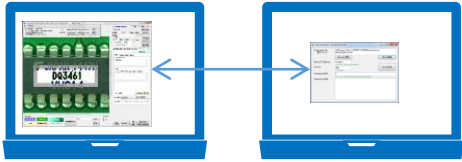
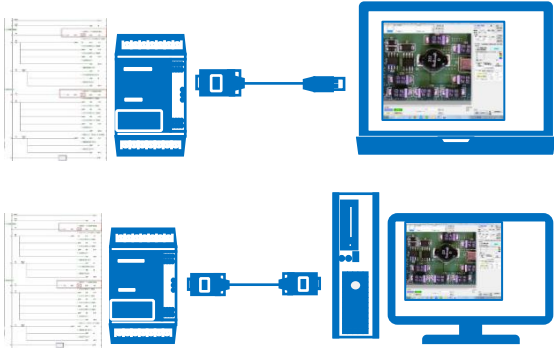
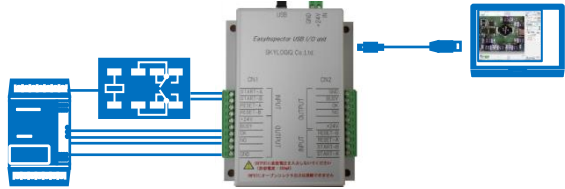
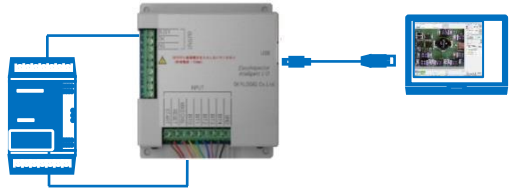


EasyInspector 外部制御について

EasyInspector を制御する機器	通信方法	特徴
Windows アプリ	EasyInspector と同じ PC にあるアプリ(ソケット通信) 	サンプルプログラム(弊社 HP からダウンロード可能)で制御ができます。 マスター画像の切り替えの他、各検査枠の合否、測定値を返すコマンドも使用できます。
	EasyInspector と違う PC にあるアプリ(ソケット通信) 	同上 ※LAN ケーブルで PC 同士を接続するか、ハブを介して PC 同士を接続します。
シーケンサー	RS232C 通信 	マスター画像の切り替えの他、各検査枠の合否、測定値を返すコマンドも使用できます。RS232C でコマンドを送信するラダープログラムと RS232C ポートが必要です。 ※RS232C ポートがついていない場合は、増設が必要です。
	I/O ユニット 	接点出力で検査トリガーをかけ、オープンコレクタで検査結果を受けることができます。マスター画像の切替は不可。検査トリガーはシーケンサーのオープンコレクタ出力との直接接続はできません。
	インテリジェント I/O ユニット 	シーケンサーのオープンコレクタ出力で検査トリガーをかけ、インテリジェント I/O ユニットのオープンコレクタ出力から検査結果を受けることができます。マスター画像の切替が可能(32 種類)。検査結果は総合判定となり、検査枠ごとの結果は得られません。

<ソケット通信による制御>

TCP/IP(Socket)通信を使用して、EasyInspector を制御します。

外部アプリから EasyInspector に検査開始命令を出して、EasyInspector が検査を行い外部アプリに検査結果を返します。

外部アプリは、お客様でご用意いただくか、弊社で作成することも可能です。

弊社ホームページよりソケット通信サンプルプログラムをダウンロードできます。

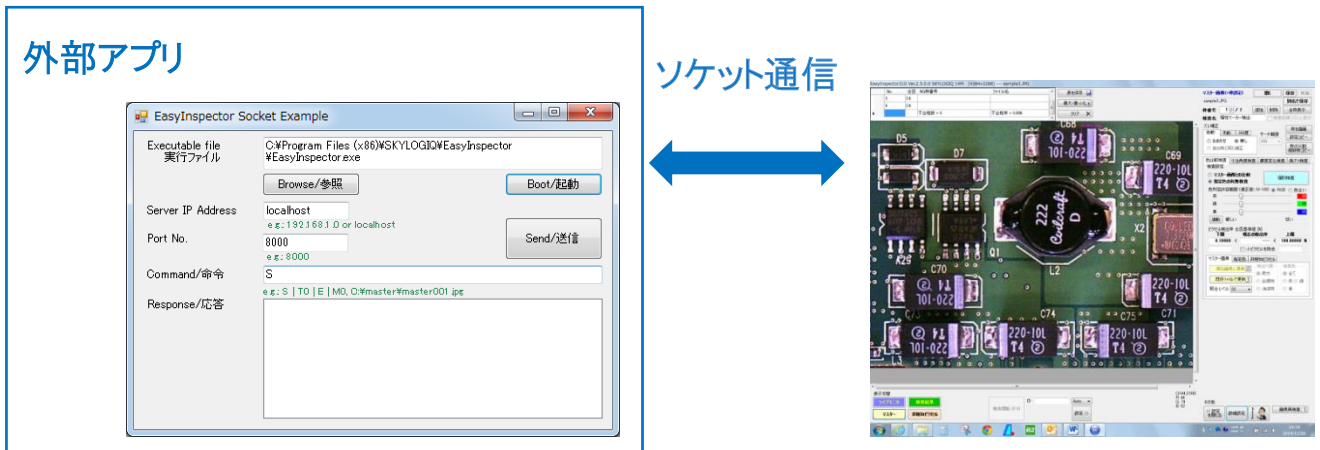
ダウンロード(サンプルプログラムは下の方にございます) ↓

http://www.skylogiq.co.jp/download/download_1/index.html

通信コマンドリスト ↓

http://www.skylogiq.co.jp/EasyInspector_command_v3.3.pdf

運用方法



① 外部アプリにソケット通信サンプルプログラムを組み込みます(プロジェクトに Sclient フォームを追加してください)。

② サンプルプログラムの中の Public 関数の Communicate(命令(T0 など))をコールします。

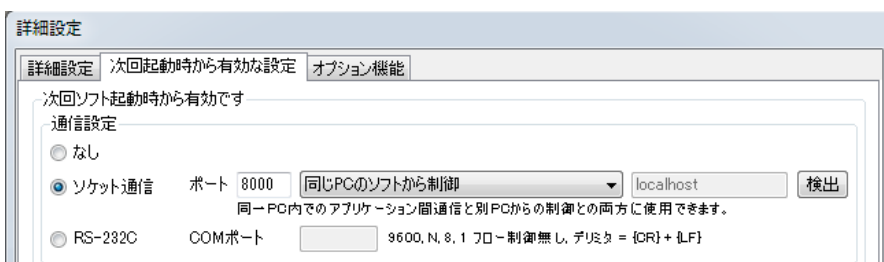
例: `returnstring = Sclient.Communicate("localhost", 8000, "T0", 3, false)`

localhost は同じ PC の IP アドレスを指します。別 PC の場合は"192.168.50.50"などの IP アドレスになります。

8000 は TCP/IP 通信のポート番号、T0 は検査実行コマンド、3 は通信が失敗した時のリトライ回数、

false は通信が失敗した時にエラーメッセージを表示しないことを意味しています。

EasyInspector での設定内容



EasyInspector でソケット通信によるコマンドを受信できるように IP アドレス(localhost または 192.168..のアドレス)とポートを設定する必要があります。

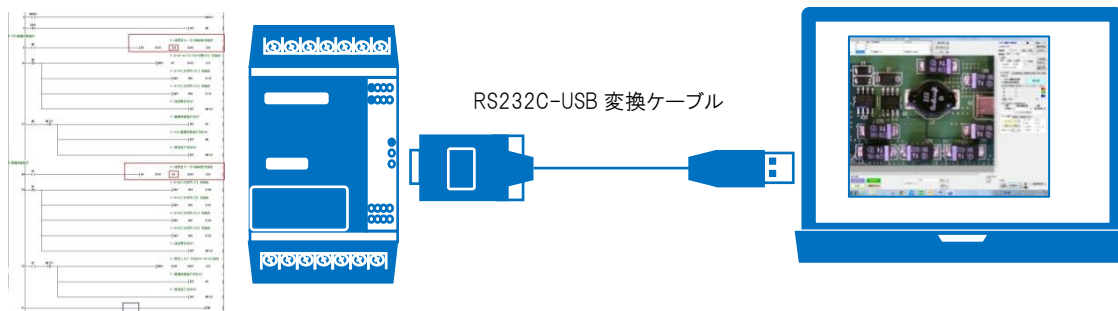
<RS232C 通信による制御>

外部装置(PLC 等)や外部ソフトより特定の「コマンド」を RS232C 通信で EasyInspector へ送信することにより、EasyInspector へ検査命令を出すことができ、EasyInspector はその結果を外部装置へ返します。

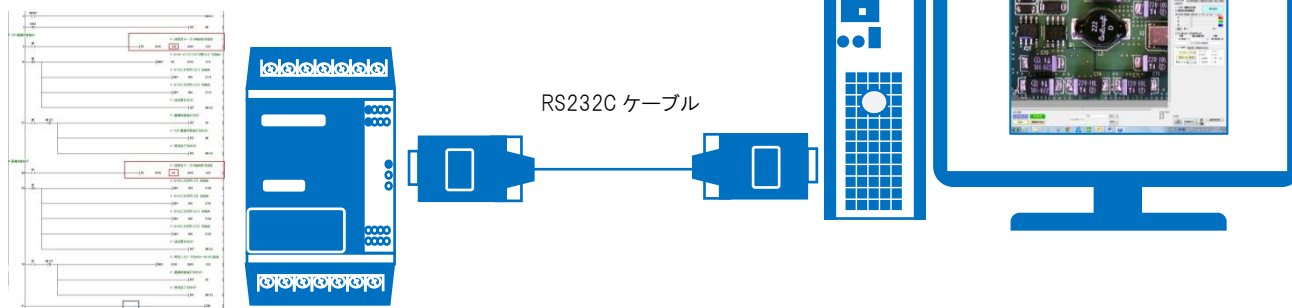
「通信コマンドリスト」↓

http://www.skylogiq.co.jp/manual/EI_Command.pdf

ラダープログラム(RS-232C 制御)



ラダープログラム(RS-232C 制御)

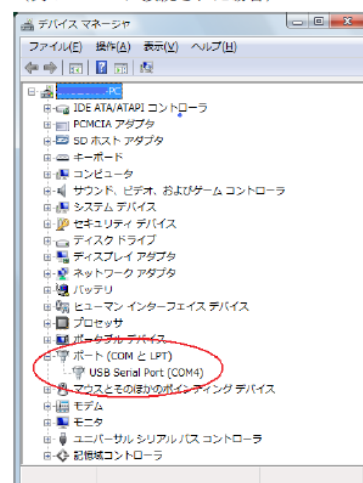
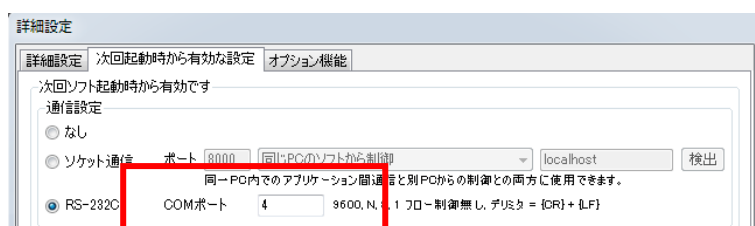


RS232C ケーブルについては、USB-232C 変換ケーブルでの接続も可能です。

弊社では、より安定した通信のため RS232C 増設ボードを使用しての RS232C 接続をお勧めしています。

EasyInspector の設定

(例：COM4 に接続された場合)



・COM ポートに入力する数字について

「デバイスマネージャ」画面より接続した USB ポート番号を確認します。

右図では COM ポート 4 に接続されていますので、EasyInspector の設定画面で、COM ポート欄に 4 と入力します。

<I/O ユニットによる制御>

入力は

- ・ 接点スイッチ
- ・ リレー
- ・ フォトカプラ

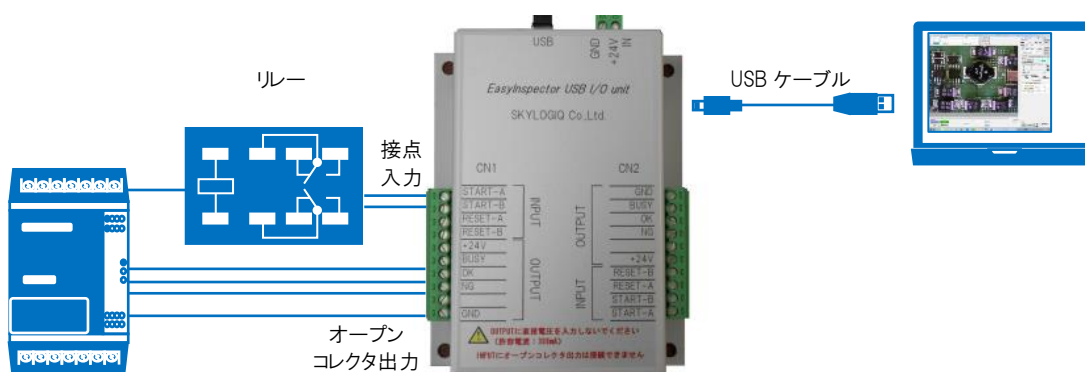
と接続できます。シーケンサのオープンコレクタ出力との直接接続はできません。 I/O ユニートを接続後、EasyInspector 起動しますと、EasyInspector が I/O ユニートを認識します(I/O ユニートのデバイスドライバソフトは必要ありません)。

パトライトやブザーで検査結果をお知らせする場合は、別途24V 電源の供給が必要になります。

出力はオープンコレクタです。

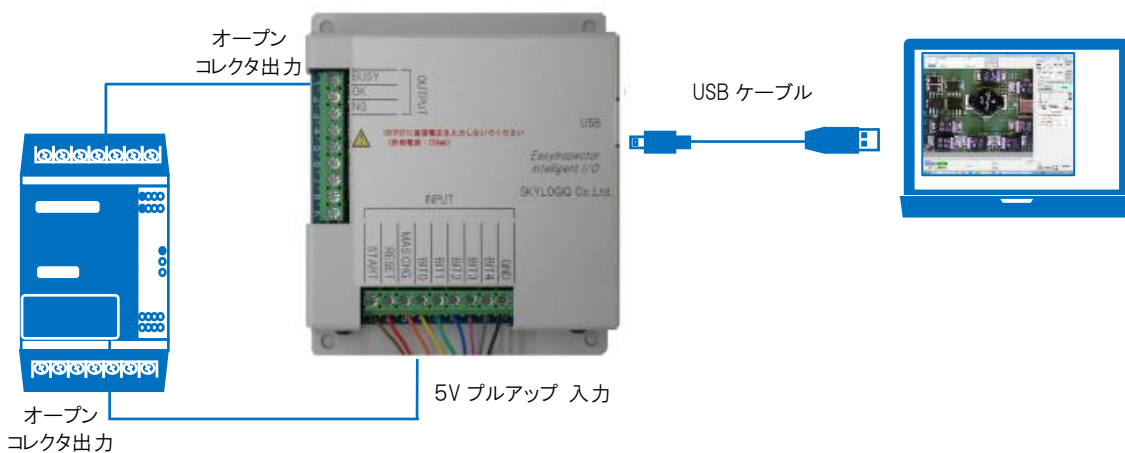
I/O ユニット↓

http://www.skylogiq.co.jp/product/usbio_new/index.html(上記はデモ機がございます。)



<インテリジェント I/O ユニットによる制御>

シーケンサのオープンコレクタ出力で検査トリガーをかけ、インテリジェント I/O ユニットのオープンコレクタ出力から検査結果を受けることができます。マスター画像の切替が可能(32 種類)。検査結果は総合判定となり、検査枠ごとの結果は得られません。



マスター画像の切替は

- ・ BIT0～BIT4 へのオープンコレクタ出力をそれぞれ ON/OFF で設定した後、
- ・ MAS.CHG へのオープンコレクタ出力を OFF→ON に変化させます。

マスター画像は予め C ドライブ内に「master」というフォルダを作成し、その中に「000.jpg～031.jpg」のファイル名で作成しておきます。

例:

	BIT4	BIT3	BIT2	BIT1	BIT0
000.jpg	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
003.jpg	OFF	OFF	OFF	ON(レベル 0V)	ON(レベル 0V)

検査開始は、START 入力へつながるオープンコレクタ出力を ON します。

その後、インテリジェント I/O の BUSY 出力が ON になり(検査中)、続いて OK・NG 出力が ON になり、BUSY 出力が OFF になります。RESET を OFF→ON に変化させますと、OK・NG 出力が OFF になります。